

環境倫理学・環境哲学研究室

教員名：関 陽子

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

環境危機をどのように克服してゆくかという課題は、最終的に「人間と自然とのかかわり」や「人間と人間のかかわり」がいかにあるべきか、「人間にとって自然とは何か」、「人間とは何か」という根源的な問いへ行き着きます。環境倫理・環境哲学研究室では、現実の様々な課題に目を向けながら、先哲の概念や理論の研究を通じてこうした大切な問いに向き合います。



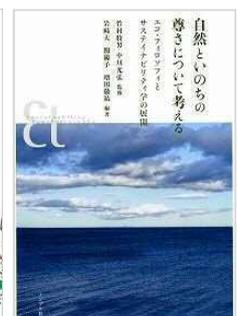
「疎外」を克服する活動としての獣害対策から
(三重県伊賀市)

◎ 「共生 (kyosei)」の探究

日本の高度経済成長をけん引したスローガンが「進歩」ならば、現代社会のスローガンは「共生」だと言ってよいのではないのでしょうか。「共生」という語は今やどこでも目にするようになりましたが、人間や自然にとってどのような状態の、何であるかについて十分に明らかにされているとはいえません。そこで関研究室では、主に人間と野生生物との関係性の問題（獣害問題や捕鯨問題など）や、農林水産業の課題から「人間と自然の共生」について考えています。



〈いのち〉を活かしあう捕鯨と「食」文化へ
(和歌山県太地町)



● 先輩はどんなところに就職しているの？

スタートしたばかりの研究室なので、この研究室からの卒業生はまだ出ていません。倫理学や哲学の研究は、事物の背後にある目に見えないものを対象にする研究ですが、すべての学問や社会を支える大本であり、様々な分野や仕事に応用可能な「強み」をもっています。その「強み」を活かして、社会で活躍する卒業生が一人でも多く輩出されることを切に願っています。